

日本環境教育学会第 06-5 回運営委員会議事要録

2007 年 3 月 10 日（立教大学）

出席者：小澤、朝岡、飯尾、乾、植田、萩原、木内、陸、小堀、戸田、林、樋口、福井、
本庄、湊、山田、佐島、西城戸、阿部、降旗、比屋根、諏訪、矢野

欠席者：小栗、金田、塩瀬、藤岡、見上、（順不同、敬称略）

記録：手島、楠野、櫃本、萩原

1. 第 06-4 回運営委員会議事要録の確認について（別紙）

<報告事項>

2. 2006 年度大会の決算報告について（乾委員／別紙）

学会本部から借りた大会準備金 40 万円を返却した。引き続き「北海道勉強会」として支部設立に向けた準備を続けたいので支援して欲しい。

→財政的にも大会を成功させていただいたという功に報いるとともに、支部設立のための支援をするために次年度予算に 10 万円程度の地域支援予算を盛り込みたい（事務局）

<訂正> 広告費の 2 万×10 件について（ ）内を修正。△の書式に変更。

3. 2007 年度大会について（矢野次長）

申し込みは、口頭発表者：160、ポスター：28 名、関連小集会：9 名となった。現在、プログラム編成の途中。運営委員会への要望として、要旨集の広告を本部でも集めていただきたい。

4. 第 10 期役員選挙の結果について（選挙管理委員会／別紙）

当選と次点を記載。20 票以下は載せていない。

5. 退会者の確認（別紙）

15 名の退会が確認。

6. 共催・協力・後援・協賛等の依頼（別紙）

4 つの団体から後援の依頼。

7. 『子ども白書 2007 年版』（日本子どもを守る会編／草土出版）の編集協力依頼（別紙）

子ども白書編集委員長から依頼があった。今回も、陸委員に窓口になってもらい、執筆、編集に協力する。

8. 学会事務局保管資料の取り扱いについて

ニュースレター・学会誌の在庫を減らす努力をしているにも拘らず、保管資料の処分ができずに少しずつ増えている(2/25ML)。過去4年間はすべての文書を保管し、貴重と思われるものは除いて、それ以前の文書を処分することが確認された。

9. 修士論文・博士論文合同発表会について（福井委員、乾委員）

関東支部：博士1、修士7件の発表があった。関東支部では、年報を出す。

北海道：学部4、修士2件の発表。発表から研究会へ。

→関西の会員が関東で発表できるのか？支部規約によれば支部会員の申請をすればできる地域を越えて発表することについては今後の運営委員会で協議する。

10. その他

子ども環境学会大会のチラシ（A4一枚で5万円）を入れる。

<協議事項>

11. 新入会員の承認

45名の新入会員が承認された。

12. 各位委員会・担当からの報告

(1) 編集委員会から（樋口委員長）

現在の審査状況の確認がされた。

34号について（16巻－2号）。投稿は、原著2、研究4資料となる。原著論文が通りにくくなっており、投稿区分についても今後の編集委員会へ協議を引き継ぐこととなった。

（新）環境教育指導資料をもとにした特集号についての報告。

投稿も増加傾向で、編集委員に負担がかかりすぎている。

(2) 広報委員会から（本庄委員長）

77号の現状は、4月11日発行予定で、順調である。78号の予定。

編集のシステム：ウェブとニュースレター、雑誌化の方向へ、次年度へ。

(3) 企画委員会から（見上委員長）

欠席のため報告なし。

(4) 国際交流委員会から（小堀委員長）

田んぼの国際環境教育会議についての報告。実行委員会を4月中に1回目を行ないたい。湊委員が中心となって開催（資料参照）。

(5) ウェブ担当から（林委員）

支部の欄に、関東支部を載せる。北海道の勉強会を載せるなど、アピールしていく。

13. プロジェクト研究について

(1) 東アジアの環境教育実践 (諏訪リーダー)

5月の大会にむけ、中国・韓国から2名を招き、現在の環境教育の実践の報告をする。

(2) 持続可能な開発のための教育 (阿部リーダー)

ESDのモデル作りが環境省や文科省で進行しており、アジア地域のモデルをユネスコが作る。75地域から申請があり、10地域が選ばれた。

(3) 環境教育ガイドライン (小澤会長)

辞典についての報告。概要は今後議論。ただし、学会としての枠組みが必要。小学校版を全体的に、中・高は事例版に。

14. 2007年度除籍対象者及び除籍手続きについて

正会員で66名。団体については6団体に通知した。3月末日までに支払いがない場合は、5月の運営委員会で除籍を決定したい。

15. 2008年度大会について (小澤会長、諏訪次期委員)

会場校の学習院女子大では、発足時から環境教育センターを設置し、理科教育が多い。センターがあるので適切な場所ではないか。また、地下鉄ができるので便利になる。

16. 引継ぎ課題

(1) 学会奨励賞のガイドラインについて / 陸委員からたたき台を提案

(2) 学会誌・ニュースレター・Web等の位置づけ及び雑誌刊行準備について

(3) 選挙制度及び規約改正に向けた検討について

選挙制度および規約改正について報告。運営委員会の体制について。規約は来年の大会以降になる。

(4) 個人情報の保護並びにそれに係る資料の管理について

今後の名簿作成の方針について、個人情報保護法との兼ね合いでどうしていくか。

(5) 海外の関連学会との計画的な交流の促進について

国際交流委員会と協力していく。韓国や北米の環境教育学会との交流を進めるなど。交流のすすめかたを決める。

(6) その他

プロジェクト研究の成果の公表方法について。

17. その他

事務局からのお願いとして、学会の財政状況により、交通費の支払いは今期限りで退任される方には現金、他の人は口座振替にしていきたい。

委員の退任挨拶：乾先生、荻原先生、木内先生、小堀先生